

2021 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業

## 研究成果報告書

(1) 事業名 (下記より該当事業名を選択し、ほかは削除して下さい。)

共同研究員

(2) 研究代表者

氏名：吉羽 永子

所属機関名・部局名・職名：新潟大学・医歯学総合病院・講師

(3) 研究課題名 (申請時に記載したものと同一課題名を記入して下さい。)

マクロファージの表現型に影響する細胞外基質ラミニンの機能解析

(4) 蛋白質研究所受入担当教員

教員名：関口 清俊 寄附研究部門教授

(研究室名：マトリクソーム科学 (ニッピ) 寄附研究部門)

(5) 研究成果の概要 (公開)

異物に対し活発な食食能を持つマクロファージ(M $\phi$ )は組織の恒常性の維持に重要な働きをしている。この M $\phi$ には多様なサブタイプが存在し、近年、様々な疾患に直接関与していることが知られるようになってきた。一方、基底膜の主要構成成分であるラミニンには、現在 19 種類以上のアイソフォームが存在することが報告されている。これまで M $\phi$ の分極化は微小環境によるサイトカインによるものと考えられてきたが、私達はラミニンアイソフォームが M $\phi$ の表現型に影響を与えることを見出した。しかしながら、その誘導機序は不明である。そこで本研究は、ラミニン研究の専門家である関口教授との共同研究により、ラミニンによる M $\phi$ 表現型誘導機序を明らかにすることを目的としている。2021年度の共同研究は、新型コロナウイルスの影響により、大阪大学蛋白質研究所に来所することができず、施設を使用しての共同研究は実施することができなかった。しかしながら関口教授より、データの解釈や実際に使用する試薬等についての具体的なご指示をいただきながら、実験を進めることができた。